



第2回

首里城復興に係る
寄附金の活用状況

令和元年10月31日未明に発生した火災により、首里城正殿を含む建物9棟および建物内に展示・収蔵されていた多くの美術工芸品などが焼失しました。

火災直後から、たくさんの方々によって寄せられた寄附金は、令和8年7月末時点で約62億円となっており、そのうち火災後から令和4年3月までにいただいた約55億円を「首里城復興基金」に、令和4年4月以降にいただいた約7億円を「首里城未来基金」にそれぞれ積み立て、さまざまな取組に活用しています。改めまして、ご寄附いただいた多くの皆さまに感謝申し上げます。

首里城復興基金
部材の調達・装飾品の製作

県では、「首里城復興基金」を活用し、正殿における赤瓦や屋根を支える柱・礎石などの主

要な部材の調達をは

じめ、来訪者の目を引く「龍柱」や「龍頭棟飾」、「扁額」といった装飾品の製作に取り組んできました。

製作にあたっては、平成の復元時以降の新たな知見に加え、沖縄県立芸術大学などの研究機関の協力による高精細な古写真の活用など、現時点で確立された技術なども活用し、有識者による監修のもと、復元年代と設定された姿へより近づけるよう取り組みました。令和8年11月23日(月・祝)に正殿が一般公開された際には、ぜひ現地で直接ご覧ください。

首里城未来基金 人材育成、
歴史まちづくりの取組

「首里城未来基金」は、首里城に象徴される沖縄固有の歴史と文化の価値を次世代へ継承することを目的に、「伝統的な建



「龍柱」製作の様子



「龍頭棟飾」製作の様子

築等の技術にかかる人材育成」および「古都首里の歴史的空間創出」に活用されています。

令和5年度からは、伝統的な建築分野の研修を実施し、人材育成に取り組んでいます。また、歴史文化資源の再現整備として、龍潭近くの「世持橋勾欄」を製作し、設置しました。今後は、中城御殿の正門などの整備に取り組むこととしています。

(上)伝統建築人材育成の様子
(下)世持橋勾欄

問い合わせ

首里城復興課

電話：098-943-0140



読者の声 へ美ら島沖縄8月号へ

表紙「うちなー天ぶらいか？さかな？」

● 天ぶらの具材当てが楽しかった！みんなにも聞いてみたくなりました。

● 色もカラフルで、手に取りたいと思わせるデザインが好印象でした。

連載1「地方創生人口減少社会への対策

● 未婚率を低下させるため、結婚にむけた出会いの機会の提供は、迂遠の策のようが必要なことだと思いました。

特集「沖縄こどもの未来県民会議

● 子供の貧困は我々大人が解消していくと常日頃思っております。

沖縄を知る！特別授業「高校野球でちむどんどん」

● 沖縄県にとって高校野球というのはスポーツ観戦に留まらず、文化のような面もあるなあと以前より感じていました。

● 職場で高校野球の試合観戦をした場合、いろいろ良い影響があることになるほどと納得でした。

北中城村でただいま挑戦中！

● おしゃれなカフェも多い人気エリアで、『農業』にスポットをあてて未来計画を行っているところに関心を持ちました。

今後取り上げてほしい内容

● 県民が参加できるコンクールや大会、イベントの情報をもっと載せて欲しい。

● 内容は充実していてとても良いと思います。ページ数を増やして、特集の内容をもう少し増やしてもいいのでは。

「美ら島沖縄」のバックナンバーは、県のホームページでご覧いただけます。



美ら島沖縄

「美ら島沖縄」のアンケートに回答いただいた内容から一部抜粋して掲載しています。アンケートについては、10ページをご覧ください。

10.30 世界のウチナーンチュの日
WORLD UCHINANCHU DAY